

KIT虎ノ門大学院 学習支援計画書(シラバス)

科目名		科目コード	単位数	開講期	講義形式
チェンジマネジメント特論 2		Z 125	1 単位	3 学期	ハイフレックス
Change Management 2					
科目分野		課程領域			
経営戦略		イノベーションマネジメント共通科目			
担当教員名	メールアドレス	連絡方法 / オフィスアワー			
山田英二 佐藤龍太郎	-	メールアポイントにて随時			

関連している科目(履修推奨科目)

チェンジマネジメント特論 1

授業の概要と到達目標

授業の主題と概要

チェンジマネジメントの本質は、バランスと個性にある。本科目は、「多彩なアプローチ・ゲスト」と、「自分で考える」授業である。本科目(特論2)は、「実践編」として構成する。現在の激しい経営環境の中、多くの企業が業務改革に取り組んでいる。しかし、業務改革の計画を早く、着実に実行するための「変革のマネジメント」について十分な準備と知識ができていないため、元に戻ってしまったり、予測されたスピードで変革が進まないケースがほとんどである。現代経営の中核であるチェンジマネジメントの概念と基礎知識を修得し、今までの業務改革の成功要因および失敗要因をケーススタディを通して分析し、チェンジマネジメントはとにより組織改革から知識改革までの成功のこつを見極めるための現実感とノウハウを学ぶ。

チェンジマネジメントのコツをつかむため、実践で活躍する講師・ゲストスピーカーによるリアルな内容の授業を行う。

- ① 変革推進のための技術(1)トライ&エラーによる現実的対応(8ステップの変則適応)
- ② 変革推進のための技術(2)社員巻き込み方(コツ、ティップス、教訓など)
- ③ 変革推進のための技術(3)変革のリーダーシップ
- ④ 変革推進のための技術(4)抵抗勢力への対応方法
- ⑤ 変革推進のための技術(5)内側からの変革(従来方式とは異なる「ホールシステム・アプローチ」という概念)
- ⑥ 変革推進のための技術(6)AI手法の演習(ホールシステム・アプローチの実際)
- ⑦ 学習する組織の要件と実際(勝ち続ける組織の事例研究)

到達(修得)目標

チェンジマネジメントはとにより組織改革から知識改革までの成功のこつを見極めるための現実感とノウハウを学ぶ

受講対象者

経営企画担当者、組織企画担当者、IT コンサルタント、プライベートエクイティ
業務責任範囲:事業構造・業務プロセスの変革、新ITシステムの導入、企業合併後の事業・組織統合

履修上の注意事項やアドバイス

- ※ 本科目は、隔週クラス(180分×4日間、合計8コマ)で構成する。
- ※ 欠席が、2コマ(90分=1コマ)を超える場合は、単位修得にも影響する。欠席の際は、事前連絡を徹底すること。
- ※ 担当する教員は実務家教員とする。
- ※ 授業にて配布する資料等教材や講義収録映像・音声の無断転用・転載を禁じます。

コンピテンシ修得目標

知識領域 (Y軸)		ヒューマンパワー (Z軸)		思考プロセス (X軸)	
Y1: 基盤法令・テクノロジー	○	Z1: 問題発見力	○	X1: 企画	○
Y2: 応用法令・実務・テクノロジー		Z2: 独創力		X2: 構想	○
Y3: グローバル法令・実務		Z3: 問題解決力	○	X3: 調査・分析	○
Y4: マネジメント	○	Z4: プレゼンテーション力	○	X4: 設計・開発	
Y5: 戦略立案		Z5: 変革推進力	○	X5: 変革	○
Y6: 標準化		Z6: コミュニケーション力	○	X6: 導入・運用	
		Z7: リーダーシップ力	○	X7: 評価・検証	
		Z8: ネゴシエーション力		X8: リーガルマインド	
		Z9: オーナーシップ力		X9: ライフサイクル	

プラクティカム

イベント / ケース	教育技法	マテリアル / ツール
1 企業変革の実践的進め方 トピック:社員の巻き込み方、抵抗勢力への対応など	講義 ディスカッション	PPT など 当日配布予定
2 変革事例を通じた実践的ケーススタディ 事例:匿名の実例(大手サービス系企業)	講義 ディスカッション	PPT など 当日配布予定
3 変革の新潮流I(特別講師) トピック:多様性導入による組織の体質改革	講義 ディスカッション	PPT 質問票(事前に提示予定)
4 変革の新潮流II(特別講師) トピック:組織の潜在力に基づく内側からの改革	講義 AI技法の実習	PPT 質問票(事前に提示予定)
5 中間テスト(プレゼンテーション) 事例:旭山動物園	チームプレゼンテーション	

6	講義のまとめ(究極のチェンジマネジメント) 事例:自己変革型企業(トヨタ自動車)	ディスカッション	PPT 質問票(事前に提示予定)
評価の方法			
(総合評価項目と割合)		評価の要点	
出席・受講態度、提出物、講義中の貢献度	70%	毎回、事務室より出席簿を準備する。	
グループ発表及びテスト	30%		
合計	100%		
テキスト・参考図書など			備考
※ 追加する場合を含め、一部変更となる場合もございますので予めご了承ください			
テキスト (購入が必要)	「企業変革の核心」ジョン・コッター(日経BP, 2009) 「ポジティブ・チェンジ」ダイアン・ホイットニー他(ヒューマンバリュー, 2006)		
参考図書 (購入は任意・講師推奨)	「企業変革力」「企業変革ノート」ジョン・コッター(日経BP) 「カモメになったペンギン」ジョン・コッター(ダイヤモンド, 2007) 「実行する組織」ジョン・コッター(ダイヤモンド, 2015) 「ナディアが群れを離れる理由」ジョン・コッター(ダイヤモンド, 2017) 「チェンジ・モンスター」ジーニー・ダック(東洋経済, 2001) 「ダイバーシティの潮流と現実」(早稲田ビジネススクールレビューVol.09) 「ホールシステム・アプローチ」香取一昭、大川恒(日経, 2011)		
参考URL			
適宜紹介予定			

※講師担当回や事例を変更する場合があります。

コマ	学習内容	事前準備・課題	担当者	時間
1.2	コースの概要説明と変革プロセスの復習 変革の技術①(変則的なプロセスの事例) ・コッターの8ステップ理論の復習 ・事例研究:事前にケースを配布 変革の技術②(社員を変革に巻き込むメソロジー) ・初期段階の課題発掘から社員巻き込みの貴重なチャンスを活かす ・特別講師による実践的講義と演習	別途配布する質問票への回答	山田 (ゲスト)	180分
	イベント ディスカッション、グループ演習			
3.4	変革の技術③変革実行のプランニング) ・事例研究(匿名サービス系企業の変革例を通じて、成功するプランニングの要諦を検討する) 変革の技術④(抵抗勢力への対応) ・チェンジ・モンスターの類型と対処法を実際の経験から解説	別途配布する質問票への回答	佐藤	180分
	イベント プレゼンテーション・ディスカッション			
5.6	変革の技術⑤(ホールシステム・アプローチ) ・AIを中心に「内側からの改革」の理論について講義 ・従来型の変革との違いとその効果を学ぶ 変革の技術⑥(AI演習) ・特別講師による「AI技法の解説と演習指導」を演習形式で体験する	別途配布する質問票への回答	山田 (ゲスト)	180分
	イベント AI技法の演習、ディスカッション			
7.8	学習する組織の要件と実際 ・勝ち続ける組織の事例研究(トヨタ自動車) ・革新的なアイデアを生み出す組織の研究 ファイナルテスト	事前課題を読み、参考資料などを調査し、報告書を作成 事前課題を読み、各自で考えをまとめておく	山田	180分
	イベント チームプレゼンテーション・ディスカッション			

2026.05

※ 講義日程は、学事ポータルの講義日程表をご参照ください。

※ 学習内容、スケジュール、講義形式は、状況に応じて一部変更・改善が生じる場合があります。